

(翻刻)

かせぎはやめて くだされませ われわれハ
かいこも ^(ママ)もかハれず くちすきが できません
かと様と 三左衛門様と ふたり さい ^(と)
やめれハ ^(は)ハれハれも ほかいど ^(こ)いも
いかいても ^(ん)へ ^(ま)このかい ^(ママ)せぎを すれば
きまれバ たしかニ どこぞの かどくちい
で くびをつ ^(ママ)つる くびをつりたら
その ^(お)ものが この ^(お)ことをかいたと
をもて ^(お)くだされ あなたら 二人の
^(わ)ハさハいとみな ^(わ)したのものが
をもて ^(お)います ^(お)いかすも
ころすも二人 ^(こ)ことなりこれを
しると ^(ママ)い ^(ママ)ごのうらみ ^(ママ)——と
み ^(お)な ^(お)人 ^(お)い ^(お)う
やめたらよかる やめたらよかる
うらみ ^(お)うらみ ^(お)だ ^(お)んな ^(お)さま
村十うらみ

かと様

(現代語訳)

耕地整理は止めて下さい。
(耕地整理で桑の木がなくなってしまつと、)私
たちは蚕を飼うことができなくなり、生活に行き
詰まってしまうます。
加藤様と縦山様の二人さえ止めれば、私たちは
(この地を捨てて)北海道へ行かずに済むのです。
耕地整理をすると決まれば、きつとどこかの門口
で誰かが首を吊るでしょう。
首を吊った者がいたら、その者がこれを書いたと
思つて下さい。
みんな、あなたたち二人がもたらす災いと思つて
います。
生かすも殺すも二人次第です。
このことが知れわたれば、みんな二人を恨み続
けるでしょう。
止めたらいいのです。止めたらいいのです。
怨みます。怨みます旦那様。
村中が怨みます。

加藤様